

時論公論 「世界は核軍縮に向かうのか」

2013 年 08 月 07 日 (水)

広島・長崎に原爆が投下されてから 68 年となる夏を迎えました。原爆の投下によって二つの都市でその年の終わりまでに 21 万人を超す市民が亡くなりました。

しかしいまだに世界には膨大な核兵器が存在しています。

世界は核兵器廃絶に向かっているのでしょうか。

きょうは二つの核大国アメリカとロシアの核軍縮交渉の行方やそして核軍縮への日本の取り組みなどについて、安全保障担当の津屋委員と共に考えてみます。

(松井広島市長のスピーチ) 「罪もない多くの市民の命を奪い、一生にわたり心身を痛めつける核兵器は非人道の極みであり、非人道性の極みであり、絶対悪だ」

石川) 核兵器という大量殺戮兵器が、実際に戦争で使われたのは広島、長崎の二回だけです。どうして原爆投下したのか、8 月 6 日のたびに問い続けられてきました。

アメリカではいまだにこの広島、長崎への原爆投下は、「日本の降伏を早め、犠牲を少なくする」ために必要だったと考えている人が多数います。日本人としては「なぜ戦争を始め、そして敗戦の受け入れが遅れたのか」、その責任は自ら考えなければならないでしょう。

しかしはたして原爆を投下する必要はあったのでしょうか、「戦争終結を早めるため」という説明はとても同意できません。